

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0172500191		
法人名	特別非営利活動法人 ロータス会		
事業所名	グループホーム 延寿園		
所在地	余市郡余市町黒川町12丁目3番地 (電話) 0135- 22- 1132		
評価機関名	(有) ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地		
訪問調査日	平成20年1月24日	評価確定日	平成20年2月29日

【情報提供票より】 (20年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤14人, 非常勤 4人, 常勤換算9.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有 (円) 無	暖房費11～3月	4,300円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (56,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	200 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (1月24日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 81 歳	最低	59 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	よいちクリニック、勤労者医療協会余市診療所、みずの歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設立以来の古い建物を廃して、昨年新たに新築された建物は、2つのユニットのグループホームに併設されたデイサービス、また、3階には高齢者専用住居などがあります。将来的には小規模多機能をも考慮されており、特に全居室が南向きにするなど建築面での細やかな配慮が感じられます。運営者は、低廉な利用料によりお年寄りが安心して入居できるよう確たる理念を持ちながら、地域との融合を図っています。ホームの特徴は、お仕着せのない自由な暮らしへの支援と、それを支える職員のコミュニケーションが良くとられていることに尽きます。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 新しい建物の中には、前回の改善事項が良く反映されていますが、ソフト面を含め全職員が余裕を持った自己評価への取り組みには十分とはいえません。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価に対する取り組み及び外部評価への取り組みも、改善計画シートの利用により計画的な取り組みをしながら、運営推進会議へ報告の必要があると思慮いたします。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 5回の開催により、内容的にも充実されつつあります。ホームの状況、認知症介護のケース報告、防災対策など広範囲な協議がされています。今後は自己評価及び外部評価を公開しつつ、取り組みに係わるモニター役を担ってもらい、また、これまで以上に地域密着を踏むため、メンバーの拡大などの取り組みを期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見・要望や不満、苦情の収集に努めていますが、今後も訪問時を利用しての会話や具体的な提案をしながら、その回答から家族の意向を汲み取るスキルアップを図るなど工夫をして、ホーム運営への反映に資するよう期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者が地域のなかで、その人らしい暮らしができるよう、これからは地域住民の理解を得るよう取り組みが必要であり、町内会事業への参加、近隣の幼稚園児や小学校の生徒さんたちとの交流、地域のボランティアの協力など積極的な連携への取り組みを期待します。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域にあって、安心して暮らせる低料金の利用料設定を盛り込んだ独自のホーム理念は、徐々ではありますが地域住民の理解を得ております。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者及び管理者は、運営理念を職員間で共有しつつ、サービスの向上に資することを目的に、度々機会を捉えて理解を求めています。が、まだ十分とはいえません。	○	職員の採用時には理念を伝えるほか、ミーティングや申し送りなどでも理念についての話し合いを持つなど共有を図りながら、日々のケアの中で確実に反映されるよう取り組みを期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しながら、グループホームへの認識と理解を高めていただくよう考えていますが、現在のところ目立った地域との交流はない状況下にあります。	○	町内会の回覧板を利用した広報や町内の清掃事業、またお祭りや盆踊りへの参加、さらには近隣の幼稚園児、少学校の生徒たちのホーム招待、地域ボランティアとの交流など積極的な地域に密着した取り組みを望みます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、運営者や管理者間では評価の意義を理解しているものの、職員間では認識の差があるようです。また、各項目にわたる検討の時間的余裕が少なく、内容の解釈も十分とはいえません。	○	評価は、一部の職員ではなく、全職員が一体となった前向きな取り組みが期待され、ホームにおけるサービスの質の向上に直結しなければなりません。今回の評価についても、改善計画シートの利用により着実な取り組みを期待します。

余市町 グループホーム 延寿園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々や家族を交えた運営推進会議も5回の開催が重ねられています。最近の会議内容では、自己評価の内容説明や災害対策に関連して地域の避難場所の確認など、地域に密着した内容が盛り込まれ協議されています。今後はメンバーを拡大し意見を頂く計画が考慮されています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、介護保険の事務的折衝ばかりでなく、町の実地指導に係わる説明など頻りに担当者と打ち合わせを行なっています。今後はホーム行事の説明や招待などを行ないながら連携を密にしてゆく予定です。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム独自の「延寿園便り」を発行し、ホームの様子を写真とともに家族へ送付しています。また、同時に利用者個人の生活、バイタル、介護での留意事項、担当者からのお便りなど詳細な内容を送付して家族から感謝されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」の設置をしていますが利用度は少ないようです。また、利用者個人の様子を家族に知らせる「延寿園便り」に気づきを寄せて頂くお願いをしていますが、意見、要望や苦情は多くはありません。	○	家族が訪問時の意見・要望や苦情を聞きだす上手な技術の習得が職員に望まれます。また、家族へは具体的な提案の工夫をして、それに対するの回答をホーム運営やサービスの向上に反映される取り組みが望まれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、ユニット間、また、デイサービスとの間で若干の異動はあるものの極力少なくして、異動による弊害を防止しています。また、ユニット間の交流も行ない、利用者にとって職員の顔がみえるよう配慮されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間では、介護福祉士の資格取得に対する挑戦が盛んに行なわれて、運営者と管理者は試験日の職員シフトに支障がないよう配慮をするなど、育成への支援の努めています。しかし、ホーム研修及び外部の研修参加はあまり活発とはいえません。	○	資格の取得によるケアサービスのレベルアップは勿論必要ですが、外部研修などから得る情報は地域密着型サービスの質の向上に役立ち、ホーム運営にも好結果をもたらしますので、常勤、非常勤に関わらず、実務に支障のない計画的な研修機会を確保されるよう取り組みを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、管理者など一部では行なわれていますが、地域にあってネットワークが構築されていないなど、具体的な職員を対象とした同業者相互の勉強会などは行なわれておりません。	○	サービスの質の向上を目指した地域のグループホームによるネットワーク作りが望まれますし、管理者・職員が地域の同業者と交流の機会を得て、日々のサービスや職員の育成に役立つ実践的な交流や連携が望まれます。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ずホームを見て頂くほか、ショートステイを含む体験入居も可能としながら、ホーム生活が馴染めるよう配慮をしています。また、入居当初の利用者の不安を取り除くため家族の宿泊室も用意されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームのお仕着せの流れではなく、利用者本人の暮らしを大切に考えています。今までの生活経験を伺い、畑作りや編物なども教えてもらい、ともに過ごす者として共感しあう関係が作られています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴なども含めた詳細な個人基本情報の作成に取り組んでいます。日常のコミュニケーションを重視し、本人の全体像の把握に努めています。言葉が不明瞭になってきた人には、ゆっくりの機能回復練習を施し、より理解しようとする係わりをされています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを活かした計画原案に、本人、家族の意向、また職員の意見やアイデアを盛り込み、個別性のある介護計画を作成しています。今後は地域密着がより活かされた計画案作りへの取り組みを考慮されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の個人日誌の項目で介護計画にもとづいたチェックを行ない、月1回のカンファレンスで職員間での検討、共有が図られています。3ヵ月、6ヵ月の期間内見直しを目標とし、個々の状況に即した随時の見直しも実施しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域住民の要望に応じて、ショートステイの受入れや、利用者、家族の状況により通院時の送迎や希望の理容、美容室の送迎など臨機応変に支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の協力医療機関から月1回の往診診療や、電話による日常的な医療相談も可能であり、利用者が適切な医療支援が受けられるよう配慮されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一部の家族とは終末期に向けた話し合いがされていますが、ホームとしての方針（指針）は作られておりません。また、職員間でも話し合いがされていますが、方針などには至っておりません。	○	ホームとしての終末に対する対応指針を定めて、家族及び掛り付け医・看護師を交えて話し合いを持つなどの取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの尊厳を損なう言葉使いに大きな気配りをしています。言葉や対応に気づいた場合は職員間で注意し合いながら、敬いの心を忘れないようにして介護に当たっています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の暮らしは、本人本位で過ごせるよう配慮されていますが、とかく居室で寝たきりの生活になりがちなので、日常の暮らしの中に利用者ができる楽しみごとを見出して、ペースを守りながら暮らしにアクティブな面を取り入れています。		

余市町 グループホーム 延寿園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事介助をする傍ら、職員と一緒に食事を取りながら優しく会話を交えて、楽しい食事ができるよう気配りをしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は週2回を目標に入浴を楽しんで頂いています。時間的な工夫や、入浴を拒む利用者への配慮など職員のシフトを含めた支援を模索中でもあります。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴のなかで、できること、できそうなことを把握しながら、楽しみごとへのチャレンジを支援しています。菜園作業、歌のビデオに合わせた合唱、季節の飾りつけなどのほか、映画の鑑賞も予定されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季以外は日常的な散歩や買物を楽しんでいます。また、町の季節イベントであるイチゴ狩り、ぶどう狩りなどドライブを兼ねて出掛けています。これからは2階屋上に設けられたパークゴルフ場の利用も楽しみにされています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	過去には、一部利用者による徘徊で、近所の住宅に上がり込むなどの事故が起きたため、外部に通ずるドアを旋錠しておりましたが、現在では、職員による見守りと、気配りを最大限に行なうことで、昼間の旋錠はなく開放されています。		

余市町 グループホーム 延寿園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議のなかで、災害時の避難場所の確認協議、また、ホーム内での避難訓練を実施しておりますが、夜間を想定した避難訓練や近隣住民への協力依頼などは完全とはいえません。	○	職員の少ない夜間を想定した避難訓練、また、ホーム外への避難をした後の利用者保護も相当の人手を要するなど、近隣住民の協力体制は不可欠と思慮し、日頃よりの働き掛けを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師でもある担当職員により、個々の利用者の状況により栄養バランスに配慮された食事が作られています。食べる量や水分の確保は介護記録表で具体的に記録されており、すべての職員が内容を共有しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室及び食堂は、すべて南に面して暖かな陽射しがあるなど快適な空間となっています。トイレも3箇所があり1箇所を女性専用とするなどの配慮もあります。壁には季節感漂う装飾がされて見当識への気配りも見ることができました。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、思い思いの家具調度品が持ち込まれています。ベッドなどのレイアウトも本人・家族が行ない、居心地良く過ごせる空間作りがされています。状況により家族の宿泊もできる部屋も用意されるなどの配慮も見られます。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。